



今、ここ

めがす子どもの姿 ~ やさしく かしこく たくましく ~
「合言葉」わたしが主人公 一人一人が主人公
—わたしがわたしをつくる。わたしの学校をつくる—

令和4年7月19日 第4号
銭座小学校 校長 丸山朋子

1学期が終了します。



水しぶきを上げて
5・6年生水泳の学習

昨年よりさらに早く梅雨が明け、7月は暑さの厳しい日が続きました。学校のプールは、今年も、高学年の働きできれいに掃除され、子どもたちの立てる水しぶきで、ひとときのぎやかさを取り戻していました。

さて、いよいよ1学期の終業式を迎えます。

今学期、子どもたちは、運動会、校外での学習など、学校行事や毎時間の学習や生活によって、様々な「ひとものこと」にふれ、学びを積み重ねてきました。

保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご支援に心から感謝申し上げます。

そして、夏休みは、1日をご家庭と地域で過ごします。

長崎っ子の心を見つめる教育週間

—6月19日(日)~6月25日(土)—

教育週間中の学校公開につきましては、ご多様のところ、ご来校、ご参観いただきありがとうございました。

一斉に実施した道徳の授業では、ご家族の皆様の視線を受けて、いつもより“緊張度強め、頑張り度高め”の子どもたちでした。

また、この週間の取組の一つとして、全校児童が一堂に介して「りぼんタイム」を実施しました。

みんなでアニメを視聴し、感じたこと、考えたことを出し合うという学習でした。多くの挙手があり、それぞれに、アニメで描かれていた「友達同士のいじめ」を話題にして、考えを述べ合いました。

積極的に、発言しようとする姿に、職員室では「子どもたち、意欲的でしたね」と、感想が聞かれました。また、今後に向けて、意見の出し合いから、友だちの意見についてどう思うかにつなげていけば、異なる学年との話し合いや対話もできそうですね」と、担当の佐藤先生と、この学習の可能性について振り返りました。

全校児童の前で発言。聞いている人の存在がよい緊張感を作り出し、話し手の「話す力」も高まります。これも集団で学ぶ中で生まれる“相互作用”ですね。



子どものつぶやきから。

気づいてくれたらいいのになあ

ある日の昼休み、1年生と3年生の子どもに誘われて、3人で運動場の草取りとプールに向かう階段の掃除をしました。

タワシで階段をゴシゴシとこすりながら、おしゃべりをしました。

「ぼくたちが掃除したこと、誰も気づかないかな…。」

「そうね。気づかれないかもしれないね…。」

「気づいてくれたら、いいのにな…。」

「ホントね。気づいてくれたらいいね…。」

そう話しながら、校舎前の花壇に目をやると、花の咲く時期を終えた花々が取り除かれ、きれいに整地されています。

いつも、花壇の手入れをしてくださる金城さん、種まきや発芽した芽の植え替えをしてくれた環境委員会の子どもたち担当の先生方のおかげです。

誰かのはたらきで、何かが整えられ美しくなること。

誰かの働きを想像することでわかり合い、認め合い感謝できるのだな、と思ったところです。

夏休みに向かって。

①生活リズムを一定に保って

これから始まる夏休みは、1日の生活の柱が、「学校生活」から「家庭生活」に変化します。

そんな中にあっても、これまで、ご家族のサポートを受けながら作ってきた「生活リズム」は、保っていききたいところですね。生活リズムを保つことで、2学期初めの「変化」に対応しやすくなります。まずは、学校がある日と同じ時間に起きること。是非、お子さんと話し合っ取り組ませてみてください。

②夏休みの学習について

図書環教育担当の山田先生と司書の牧山先生が協力して、第2図書室に、「自由研究」の例示やヒントとなる本などを紹介してくださりました。

訪れた子どもたちは、「この自由研究、やってみよう」「これ作りたい」などと楽しそうに見学していました。本を手にとってみて借りていく人、気になった自由研究の資料をクロームブックで撮影する人もいたようです。

コツは、取り掛かりを早くすること。楽しみながら取り組んでくれることを願います。

また、学習するための道具として、学習者用パソコンクロームブックも積極的に活用してほしいところです。

◆ 長崎市GIGAスクール運営支援センター
学習用パソコンに関するご質問に対応して下さります



大豊作。生命力あふれる夏野菜

キュウリ、なすび、ピーマン、ミニトマトと、2年生が育てた夏野菜が次々に収穫の時を迎えています。どれも、立派に成長していて、子どもたちも胸を張る出来栄です。

毎日続けた水やりなどのお世話が実を結んだのですね。

順番にお家にも持ち帰り。ご家庭でのお話にも、花が咲いたことでしょう。



ジョン先生ありがとうございました。

ALTのジョン先生が今学期までで長崎でのお仕事を終わられて、アメリカに帰国されることになりました。7月日に全校児童とのお別れ会がありました。

いつも優しくご指導くださったジョン先生。昼休みも子どもたちと一緒に遊んでくださりました。最終日は、子どもたちからのサインのリクエストにも最後まで応えてくださりました。

帰国後、また、大学で学びを深められるそうです。

ジョン先生のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。



1年生と、英語でじゃんけん「ワン、ツー、スリ!!!」



南阿蘇の湧き水“うまい!”



赤牛も試食させていただきました。“おいしい!!”



木工体験
“ものづくりって楽しい”



そば打ち体験
“目指せ職人さん”

2日目。ワクワクドキドキ、グリーンランド。熱中症が心配される暑さでしたが、お土産を手に、全員、約束の時間に無事集合。帰路についてのでした。

保護者の皆様の、事前準備、励ましを受けて、子どもたちもよく頑張り、有意義な時間を過ごすことができました。成果と課題を明確にし、今後、さらに「なりたい自分づくり、学校生活づくり」に向けて、主人公意識を持って前進してくれることでしょう。出会ったすべての方々に感謝申し上げます。

2学期もどうぞよろしく願いいたします。

7月13日の地区懇談会、14日の学校保健委員会と、夏休みを前に、子どもたち生活や健康、安全等について話し合ってくださいました。ご多様な中、ありがとうございました。夏休み、そして2学期もどうぞよろしく願いいたします。

6年生 修学旅行 熊本への旅!

7月7日から8日にかけて、6年生26名が修学旅行に行っていました。

「例年より早い梅雨明け」という幸運に恵まれ、お天気も良く、保護者の皆様のお見送りに笑顔で答え元気に出発しました。

初日の目的地は阿蘇。2016年の熊本地震で大きな被害を受けたところでもあります。車中で添乗員の廣中さんが、震災で崩落し、新たにかけ替えられた阿蘇大橋のお話をしてくださりました。

いよいよ「あそ望の郷 くぎの」に到着。バスを降りて進むと、目の前に阿蘇山を望む大きな大きな景色が広がっています。

はるか昔、年前の噴火で降った火山灰が北海道まで届いていたのだそうです。自然のチカラは計り知れませんが、「阿蘇の自然の恵み、人力の敵わない自然の力と共存しながらたくましく生きています。」と、あそんもんさん(阿蘇人。現地の方言で“あそんもん”と読むのだそうです)と話してくださいました。

また、地震の被災者でありながら、救助・支援活動にあたっておられた さんから災害の対策として大切なこととして「自助・共助・公助」の3つを教えてくださいました。

その後、子どもたちは、「肉用牛肥育の話聞き、そば打ちを体験」するグループと「木工、鉛筆立てづくり」に挑戦するグループに分かれて活動。ここでしかできない貴重な体験ができました。

体験後、ご指導・お世話をしてくださった、地元ガイドさんから、子どもたちの様子について「コミュニケーションが取れていて、よく助け合っていた。素直で一生懸命だった。最高の子どもたちでした。」と、ほめていただきました。

素敵な方々と出会い、楽しく学ばせていただき、子どもたちも、自分の“もちあじ”を発揮することができたようです。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

宿に着くと入館式。そして、美味しい夕食。昼食と同様、バイキング形式の食事、選ぶ楽しさも十分に味わいました。お風呂に入り、就寝。家族と離れて、友達と枕を並べて過ごす夜。さて、どんな夢を見たのでしょうか。

